

平成 30 年度第 1 回仙台市障害者自立支援協議会	
平成 30 年 7 月 4 日	参考資料 4
平成 29 年度第 2 回仙台市障害者自立支援協議会	
平成 30 年 3 月 14 日	資料 5

平成 29 年度 青葉区障害者自立支援協議会 取組状況

○実施状況

会議		年間実施 予定回数	主な内容・議題等
(1) 全体協議会		1 回	高齢分野・障害分野それぞれの活動状況, 宮城総合支所の機能強化, 荒巻包括ケアシステムモデル事業などについて報告や意見交換を行った。
(2) 実務者ネットワーク会議		2 回	権利擁護の観点から, 第 1 回目は「障害者虐待防止法」, 第 2 回目は「地域共生社会の実現」をテーマに, それぞれ講話や参加者同士のグループワークを行った。
(3) 障害者相談支援事業所等連絡会議		12 回	青葉区内の事業所が自由に参加し, 個別事例の共有や GSV を通じたストレングスモデルの普及啓発を実施した。
(4) チームプロジェクト	相談支援 PT	7 回	行政と 3 委託による, 相談支援事業所等が抱える困難事例の相談を受け付ける場を設定し, それぞれの事業所について状況把握に努めた。
	地域課題ワーキング	4 回	協議会に上がる事例を待つだけでなく, 地域へ出向き事例を収集することを目指し発足した。現在は地域包括支援センターの取り組みなどを参考に, 地域に介入する際の手法などについて検討中。
(5) 運営会議		7 回	概ね 2 カ月に一度開催し, 各会議体やプロジェクトの進捗状況等について確認を行った。

1 今年度の主な取組み

サポネットあおばでは今年度も引き続き支援者同士の顔の見える関係づくりや、各会議体が担うべき『機能』をより意識した組織運営を念頭に活動を行った。今年度は通常の会議体である相談支援事業所等連絡会(以下、連絡会)やサポネットあおばつどい(以下、つどい)の実施から見えてきた課題解決に向け、地域課題整理ワーキングと相談支援プロジェクトという2つの取組みを行った。(それぞれの事業内容については、2を参照のこと)

2 現状における課題(地域ニーズや課題、協議会運営上の課題など)

連絡会は、地域の支援者であれば誰でも参加可能というコンセプトをもとに毎月第一木曜日に開催し、ケースレビューによる情報共有や GSV の実施によるストレングスモデルの普及啓発を行ってきた。運営するなかで、不特定多数の事業所が月ごとに集まるために事例を掘り下げて検討することが難しいことや、事例提供を行う者が委託相談支援事業所の支援者に固定されており、地域課題の把握が難しくなってきたことなどの課題が上がり、来年以降の連絡会のあり方について検討を行った。

サポネットあおばのつどい(以下、つどい)については、障害者の権利擁護の普及・啓発を目的に年二回開催し、宮城オンブズネット「エール」から講師を招いたり、支援者をシンポジストに講話を受けた内容をもとに参加者同士でグループワークを行った。来年度に向けつどいの場が地域づくりや地域にあるニーズを抽出するような場としても機能するためにどのような運営が望ましいか検討中である。

相談支援プロジェクトは、障害種別にとらわれないワンストップ相談の場の構築などを目的に平成 29 年 7 月から 12 月にかけて全 7 回実施し、指定特定相談支援事業所を対象とした行政・3 委託相談支援事業所との共同レビューを行った。この全 7 回の実施の中で相談件数が 1 件のみであったことから、改めて各指定特定相談支援事業所を対象にヒアリングを実施したところ、現場レベルでの協働事例が少なく、連携のあり方や成功事例の蓄積が少ないことが課題として見えてきた。

地域課題ワーキングは、これまでのサポネットあおばでは地域課題集約の方法が十分に明確ではないという課題解決に向け改めて地域課題の集約方法を検討した結果、これまでの連絡会などで行ってきた「個別事例収集型」の方法に加え、地域に出向いて地域住民や支援者と交流を図り、地域の実情や強み困りごとなどを共有する中でボトムアップ式に様々な地域の要素を抽出する「地域参加型」の方法を実践すべく平成 29 年度にプロジェクトチームとして発足した。地域については、国見地区を予定しており、今年度は地域の会議に参加することの意義やルールなどの整理を行っている。

3 課題に対する次年度以降の取組予定

連絡会の運営やおよび相談支援プロジェクトによるヒアリングから見えてきたそれぞれの課題解決に向け、地域のあらゆるニーズに対応している相談支援事業をベースに担う機関(委託相談支援事業所・指定特定相談支援事業所・3 専門機関・行政)が集まって個別事例の収集や共有を行う場を構築するに至った。次年度は連絡会の参加者を上記の機関に限定することで、相談支援業務に従事する支援者間のより強固な連携の土壌構築を目指す。

一方で、これまでの連絡会が担ってきた事業内容はつどいに集約し、引き続き個別事例の共有や GSV によるストレングスモデルの普及啓発についても継続して行う。

地域課題ワーキングについては、国見地区ふくし活動連絡会の参加(4 月、7 月、10 月、1 月)を通しそれぞれ翌月にワーキングを開催する予定である。

平成29年度 宮城野区障害者自立支援協議会 取組状況

○実施状況

会議	年間実施 予定回数	主な内容・議題等	
(1) 全体協議会	1回	<p>今年度の活動を共有し、運営側や地域における課題を共有する。平成30年度の運営について、助言・協力を受ける。</p> <p>(1) 区自立支援協議会・全体協議会の役割について確認 (2) 報告</p> <p>①仙台市の今年度の障害福祉における取り組みについて、②平成29年度の宮城野区自立支援協議会の取り組みについて、③平成30年度の活動計画案について</p> <p>(3) 意見交換</p>	
(2) 実務者ネットワーク 会議	8回	<p>支援者の顔の見える関係や新しいネットワークをつくり、地域課題の抽出、社会資源の開発を行う。</p> <p>(1) エリア会：3エリア×2回 (5回終了。延べ122人参加)</p> <p>(2) 全体会：2回 第1回：「地域がつながるまちづくり～ちょっとした優しさから生まれた活動を通して～」講師 NPO法人地域生活支援オレンジねっと 荒川陽子氏 (参加者：56名)</p> <p>第2回：「『共生の都・共生する社会』の実現に向けて」①講演：東北福祉大学教授 阿部一彦 氏②仙台市障害者保健福祉計画及び第5期仙台市障害福祉計画の策定について(報告) (参加者：130名)</p>	
(3) 障害者相談支援事業 所等連絡会議	12回	①相談傾向と課題の共有、②事例検討、③継続ケースの経過報告	
(4) チーム プロジェクト	学び会	6回	<p>相談支援スタッフ全体のスキルアップを目的に開催。</p> <p>①地域包括支援センターとの「自分の立場と役割について」意見交換会、②意思決定支援について、障害児とのコミュニケーション、県・市自立協各部会の共有</p>
	民生委員児童委員に対する障害者相談支援事業所認知度upのための 取り組み	31回	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業所が地域の相談窓口となれるよう、各地区民生委員児童委員協議会定例会(13地区)に参加。障害者相談支援事業所や宮城野区自立支援協議会の周知を行った。 ・プロジェクトの評価のためアンケートを実施。
(5) 運営会議	12回	各会議体の進捗管理。課題解決に向け、区自立支援協議会全体の活動の検討を行った。	

1 今年度の主な取組み

(1) 実務者ネットワーク会議エリア会

①鶴ヶ谷エリア会

鶴ヶ谷周辺にあるインフォーマルも含めた地域資源の共有を図った。第1回に地域資源に関する講義とグループによりワークショップ(地域資源マップづくり)を実施。第2回は第1回に作成した地域資源マップをもとに、フィールドワークを行った。

→地域の参加者が様々な人が住んでいる事を再認識し、地域の良いところを確認する機会になった。

②幸町エリア会

地域包括支援センターや障害者相談支援事業所等支援関係者、地域住民と関わりを多く持っている民生委員・児童委員のそれぞれの日頃の活動を話してもらい、気になる方や課題について情報共有した。

→障害福祉サービスの利用までには至っていない地域の気になる障害をお持ちの方が、地域住民に見守られて生活している現状を共有することができた。

③岩切・高砂エリア会

地域生活が送れるように、切れ目のない支援を意識したテーマで実施。地域で活動している当事者や支援機関の職員から話題提供してもらい、グループワークで障害をお持ちの方も地域でよりよく生活を送るためにはどうしたらよいか、話し合った。

→地域づくりに前向きな気持ちで参加している支援者が多くいる事を知れた。

(2) プロジェクトチーム

- ・民生委員児童委員に対する障害者相談支援事業所認知度 up のための取り組みについて

今年度は評価のためにアンケートを実施。

「障害者相談支援事業所を知っているか」… 54% (H26年度) → 79% (H29年度)

- ・プロジェクトチームについては学び会、民児協PRともに3年を一区切りに一旦終了。

2 現状における課題(地域ニーズや課題、協議会運営上の課題など)

<地域ニーズや課題>

(1) 相談支援事業所連絡会議等で、個別支援から出された課題

サービス利用援助に関する課題、家族支援について、親の高齢化、親亡き後の支援、支援につながらない方への支援、介護保険への移行、学齢期の課題、医療・健康管理に関すること等。

(2) その他の会議体において

- ・障害のある方への配慮や障害理解の啓発普及をどのように図るか。

<運営上の課題>

- ・各会議体の時間が限られる中で、十分な地域ニーズの把握や課題の抽出ができていない。
- ・各会議体の連動した運営が難しい。

3 課題に対する次年度以降の取組予定

- ・相談支援事業所連絡会議等で、個別支援から出された課題の背景を明らかにして解決方法を検討していく。
- ・実務者ネットワーク会議においては、目に見えない障害に焦点をあて、「障害のある方への配慮」、「障害理解の啓発普及」について実施内容を検討する予定。

平成 29 年度 若林区障害者自立支援協議会 取組状況

○実施状況

会議	年間実施 予定回数	主な内容・議題等	
(1) 全体協議会	1回	若林区地域ケア会議と合同開催し、それぞれの会議体から3年間の活動の報告、地域共生社会に向けた概要の説明。	
(2) 実務者ネットワーク会議	2回	第1回の内容①情報交換「余暇ハローワーク」、②グループワーク「若林区民ふるさとまつりでの障害者理解のためのPR企画について」 第2回の内容①講義「障害児支援について」、②GW「障害特性（知的・発達）、学校との関わり、家族との関わり」	
(3) 障害者相談支援事業所等連絡会議	12回	支援者の支援力向上等を目的として「グループスーパービジョンの基礎」、「ひきこもり事例への対応について」、「地域包括支援センターとの交流・意見交換」他を開催	
(4) プロジェクトチーム	区民まつり PT	適宜	若林区民ふるさとまつりの参加の打合せ
	課題解決 PT	3回	地域課題の検証
(5) 運営会議	12回	平成29年度の企画運営	
その他の活動			
臨時運営会議	2回	若林区自立支援協議会のあり方について	
若林区民ふるさとまつり	1回	障害者理解を目的に参加。障害当事者と点字しおりづくり、障害者に関するクイズコーナーや、就労系事業所の製品紹介を行った。	

1 今年度の主な取組み

- ① 障害に関する啓発活動（地域住民向け）
「若林区民ふるさとまつり」へ参加
障害に関する啓発活動とともに、障害者自立支援協議会の活動 PR を実施
- ② 地域包括支援センターとの連携
地域ケア会議への参加
連絡会の合同開催：障害者支援と高齢者支援での支援内容の共有・情報交換
- ③ 支援者向け研修会・事例検討会
事業所連絡会やネットワーク会議で研修会等を開催

2 現状における課題（地域ニーズや課題、協議会運営上の課題など）

- ① 活動の課題
 - i 高齢分野との連携強化
 - ・高齢分野との会議の合同開催の持ち方の検討
 - ・住民へのタイムリーな協働支援につなげるための支援者間の顔の見える関係作り
 - ii 地域生活に根ざしたネットワークの広がり
 - ・課題に合わせてのネットワーク作りの積み重ね
 - iii 障害に関する啓発活動の継続と発展
 - ・障害理解・自立支援協議会の PR はまだまだ必要
 - ・PR する場の拡大（学校・市民センター・etc.）
 - ・「自立くん」の活用方法の検討
 - ・啓発のツール（講義、体験型、グループワーク、etc）の検討
 - ・区自立協が担う啓発活動の対象者、目的等を明確にすること。また、その到達目標に対して中間評価を行う事
 - iv 活動実績の積み上げ
活動実績や課題解決を行っても積みあがらないため、記録や集約の仕組みづくり
 - v 地域課題の抽出
課題を集約していく仕組みづくり、精度を上げる工夫をしていく
 - vi 相談支援のスキルアップ
事例検討や必要に応じた研修会を開催
- ② 運営の課題
 - i 自立支援協議会の認知度が低い
当事者の方々や町内会などにもまだまだ認知されていない。
 - ii 自立支援協議会を運営するメンバーが足りない
今後、新たな業務を担うことが想定されるが、現メンバーだけでは全て業務を負いきれない。
 - iii 市自立協との連携方法、情報の伝達方法が確立されていない
組織図では連携？が双方向となっているが、方法が確立されていないと感じる。

3 課題に対する次年度以降の取組予定

年度当初に上記 2 に対する解決策、活動計画等を作成する

平成29年度 太白区障害者自立支援協議会 取組状況

○実施状況

会議		年間実施 予定回数	主な内容・議題等
(1) 全体協議会		1回	<p>太白区高齢者障害者地域会議 (平成30年1月30日) 報告と意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢分野と障害分野の連携した取り組みについて (よりそいワーキング65※、多職種連携会議と障害者相談支援事業所連絡会の合同開催) ・社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会、長町地域包括支援センターより地域活動の取り組み報告 ・障害者相談支援事業所より地域で支えられながら生活している障害者の事例紹介
(2) 実務者ネットワーク会議		27回	<p>○全体会 3回 平成29年6月16日：高齢者障害者の権利擁護 平成29年10月20日：障害者差別解消法と合理的配慮 平成30年1月19日：テーマ別 困りごとフリートーク (精神疾患を持つ方の対応、親離れ子離れについて、生活スキルの向上、生活習慣病予防等の健康管理について)</p> <p>○エリア会 (区内を3エリアに分け実施) 交流、情報共有や支援方法の検討、研修会の実施</p>
(3) 障害者相談支援事業所等連絡会議		12回	<ul style="list-style-type: none"> ・主に新規相談を受けたケースについて情報共有 ・事例検討 <p>※うち1回は高齢分野の多職種連携会議と合同開催</p>
(4) チームプロジェクト	よりそいワーキング65※	ワーキング5回	<p>障害福祉サービスから介護保険サービスへのスムーズな移行を目的に発足。課題の整理や高齢分野と障害分野の相互理解のための勉強会等を企画。</p> <p><構成メンバー> 地域包括支援センター、委託障害者相談支援事業所、区障害高齢課(高齢者支援係・障害者支援係)</p>
		勉強会4回	<p>よりそいワーキング65のメンバーが中心となって実施</p> <p><障害福祉サービスの理解></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 西多賀包括圏域介護サービス事業所交流会での説明 <サービス移行を考えるための事例検討> ② 地域包括支援センター職員を対象とした勉強会 ③ 地域包括支援センター社会福祉士部会での勉強会 ④ ケアマネジャーを対象とした勉強会
	住まいプロジェクト	随時	<p>太白区内にあるグループホーム19ヶ所に訪問し、業務概要のアンケートと世話人を中心としたインタビューを実施。</p>
(5) 運営会議		11回	<ul style="list-style-type: none"> ・各会議やプロジェクトの報告、情報共有、運営方法の検討 ・実務者ネットワーク会議(全体会)の企画 ・地域課題の抽出

1 今年度の主な取組み

＜高齢分野と障害分野の連携を強化＞

- ・新たに高齢分野の多職種連携会議と障害分野の障害者相談支援事業所連絡会議を合同開催し、障害者と高齢者がいる複合的な問題を抱える世帯の事例検討を実施した。お互いの支援の考え方を共有する機会となった。
- ・よりそいワーキング 65 では、昨年度に作成した説明用パンフレットを活用し、地域包括支援センター職員向け・ケアマネジャー向けの勉強会を企画実施。昨年度のサービス理解を中心とした勉強会から、実際に移行するケースを元に事例検討を行い、より具体的な内容に発展させた。
- ・全体協議会においても、高齢分野と障害分野の連携を意識的に議題とした。

＜住まいプロジェクトの再始動＞

H26年度から「住居」に困っている方が多い事が話題となり、住まい探しの事例を整理、グループホームに焦点を当て、現状報告や解決策の検討のための情報交換会を開催してきたが、H28年度は休止。入居者に主に関わる世話人から対応の困りごと等、現場で働く方の声をダイレクトに聞きたいとの思いから、今年度は区内 19ヶ所のグループホームに出向いてインタビューを実施した。今後、インタビュー結果をまとめ、良い取り組みや工夫等をフィードバックすることで、入所者が安心して住み続けられるようになると良い。

2 現状における課題（地域ニーズや課題、協議会運営上の課題など）

- ① 入居を断られる、退去を余儀なくされ住まいを失うなどの住まいの問題
- ② 介護保険サービスへのスムーズな移行のための制度理解や関係づくり
- ③ 高齢の親だけで障害を持つ子を支えているケースが多く、親が亡き後に緊急介入を要している。
- ④ 障害者の地域生活を支えることについて、地域関係者と意見交換を続けているが、障害者への対応の不安が強く、特に精神や知的障害の理解が難しい。
- ⑤ 上記課題は、区全体にいえることであり小さな地域特有の課題は把握できていない。

3 課題に対する次年度以降の取組予定

- ① まずはグループホームに焦点をあてて住まいプロジェクトを継続する。
- ② よりそいワーキング 65 を継続する。勉強会を重ねることで高齢と障害のさらなる連携を図り、本人や家族向けに移行に関する説明パンフレット作成することも検討していく。
- ③ 早期介入をどうすすめるか、個別支援だけでなく実務者ネットワーク会議を活用して共有を図る。
- ④⑤ 障害への理解を深めるための勉強会の企画、実務者ネットワーク会議に地域関係者（民生委員、福祉委員、町内会等）の積極的な参加を促し、地域特有の課題を一緒に探していく。

平成29年度 泉区障害者自立支援協議会 取組状況

○実施状況

会議	年間実施 予定回数	主な内容・議題等	
(1) 全体協議会	1回	平成30年2月8日：泉区地域ケア会議と合同開催 「皆にとって優しい地域を目指して、できること」として当事者メッセージを聞いてのGW。地域ケア会議、自立協、健康づくり事業等についての報告。	
(2) 実務者ネットワーク会議	12回	ミニ講話やグループワーク・「月刊よめごと」の発刊	
		4月 プレゼン「自立支援協議会って？」	
		5月 支援者の集い。春の友だち作ろうキャンペーン	
		6月 事例検討	
		7月 間食についての講話	
		8月 事業所見学ツアー(障害者総合支援センター)	
		9月 支援上の課題について	
		10月 事例検討	
		11月 当事者からの講話	
		12月 日頃の支援の振り返り	
		1月 事例検討	
		2月 H29年度実務者ネットワーク会議の振り返り	
		3月 語って元気になるオモカルミーティング(予定)	
(3) 障害者相談支援事業所等連絡会議	12回	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体からの支援状況・近況報告・支援上の課題での情報共有。 ・支援課題に基づいての地域課題の検討、意見交換。GSVを用いた事例検討。 	
(4) チームプロジェクト	泉区資源マップPT	12回	・余暇活動に特化した資源マップの作成。詳細な情報を必要とする支援者に活用してもらえるよう活用説明会の実施。
	健幸PT	12回	<ul style="list-style-type: none"> ・障害のある方の健康に関するアンケート調査と現状での課題分析、報告研修会の実施。実務者ネットワーク会議での研修会。 ・いずちゅう健幸祭のブース出展。
(5) 運営会議	12回	各会議体での進捗管理。広報活動の企画調整(地区民児協への広報、いずちゅう健幸祭への出展等)。研修会の企画、運営。部会等の報告。	

その他の活動		
協議会主催研修会	1回	平成 29 年 7 月 28 日 13 : 30 ~ 16 : 30 テーマ「一緒に考えよう！わたしたちの地域 ~つながって 安心なまち いずみへ~」 シンポジウムとグループワーク 参加者：77 名、障害福祉サービス事業所（相談含む）、 地域包括支援センター、民生児童委員、行政機関等
高齢分野との連携及び研修会	5回	・高齢分野との合同研修会（4回） ・全体協議会前に、地域包括支援センターと障害者相談支援事業所が集まり、事前調整

1 今年度の主な取組み

1. 当協議会や障害者相談支援事業所の役割を地域に周知する。
 - ・地区民生児童委員定例会，包括圏域ケア会議，家族会等への参加。
 - ・よめごと会議，研修会
 - ・いず☆ちゅう健幸祭への出展
2. 泉区内の地域特性を把握する。
 - ・プロジェクト活動，連絡会議での検討を通して，地域課題の抽出・整理を実施。

2 現状における課題（地域ニーズや課題、協議会運営上の課題など）

- ・それぞれの機会を活用し，広報活動を行うことができた。具体の相談支援や連携に繋がるよう，今後も同様の取り組みが必要。一般市民に向けた周知については，説明に工夫が必要
- ・地域の実態は把握できるが，比較対象がない，範囲やテーマが広い等の理由から，特性の整理には至らなかった。
- ・市の協議体との連動、連携、他区自立協との連動、情報共有が必要。

3 課題に対する次年度以降の取組予定

- ・広報活動の継続と強化。
 - ・泉区内の支援課題の把握と整理。
 - ・支援機関の支援力の向上、スキルアップ。
- 以上を泉区自立協の目標として取り組む。